名

田

正

信

君

作 作 Ж 歌

滴たた

りぬ

マセッ

和四十二年第六十回記念祭歌

方香漂うなかおりただよ 朧ま残ん 浮ぅ かぶ辛夷の かぶ辛夷の花吹雪にかかる夕月にいかる夕月に ō 夕間暮れ やわらか 0)

いま黄昏の自治の庭 いまきれい かね ね ととされい かね ね 色壮麗の鐘の音は 色壮麗の鐘の音は たをがれ じょ なるや たながれ じょ なるや たながれ じょ

Ŕ

散⁵星^は垂⁵軒⁸る 影^{*}が る 影^{*}が なに 麗る匹 銀が ね

奔は野が神にいる。 が明さる。なが間を 流れでする。なができる。 流れでする。なができる。 ではいませる。 ないできる。 ではいませる。 ないできる。 はいませる。 はいましる。 はいまる。 はっと。 はっ

す 秘で

Ŕ そや

100

É

き羽音と

か

0)

六セ銀デあ 十を鱗カ゚あ

お

びる紅鮭

六セ野のあ

₹ 7

0

るなが

実はぬ

ぬ

十~ 数

更ぶ春は埋ぅ

に咲き

関の財活の利に溯る

5 は

川かず

の

₽

ゖ

á

いかざるやいかざるや

ま

つよ

0 か ₹

の音もなく

の死に絶えて泳ぎこかつよい草の星あかり

ぬ

あ

れ

星あか

彰凍みる松が枝を がに映る 灯 に がに映る 銀 の 夜ょ路に狭せ枯か ∇ ح ひら 果は の雪の きざ 花はな

六セ長なあ 残さ よぎ 雲を見る ま有 あ h 十その のるが、 き路に旅たが舞まの 寝ねい 月 棚な 有明の自治の原 がの冬に還らずら がる。 me は がえる。 me は · 去 り は ζ 軽が 薄ゥの ぼ て渡り れ 影がら Þ ゆく 紅がけ か 0 シぬ

湧き立つ空の 見よ 紅 のようなかに歌き 牧‡楡Φ露Φ 場は林んに つらぬ い ・ま六十歩 に お iż 一代をおおり ね む る夢醒っ の夜は明けぬ め かな

歌をうたわばりなり 北景夜よは 斗と空音や 憂さも舞 いく いざ高らか をうも舞い飛ぶ火のからうまな祭りをうたわば玉響の にゅうち をるななない に祭歌 に篝火の 粉: な

ŋ